

# 「新たな移住先」としての日本： 2019年の特定技能制度の導入と インドネシア人移住労働者の実態

Waode Hanifah Istiqomah

ワオデハニファー イスティコマー

橋本財団ソシエタス総合研究所 研究員



# 発表概要

01

研究の問い

02

調査概要

03

「新たな移住先」としての日本

04

Aspiration・Capabilitiesからみる  
インドネシア人移住労働希望者

05

D氏の事例：特定技能制度の限界？

日本の特定技能制度（SSW）の導入は、  
インドネシアにいかなる影響を与えるのか

- インドネシアにおける事前研究内容の変化
- インドネシア人移住労働候補者が日本を選択する際の志向（aspiration）と意思決定の分析
- D氏・インドネシア人特定技能労働者の事例

# 研究の問い





# 調査概要

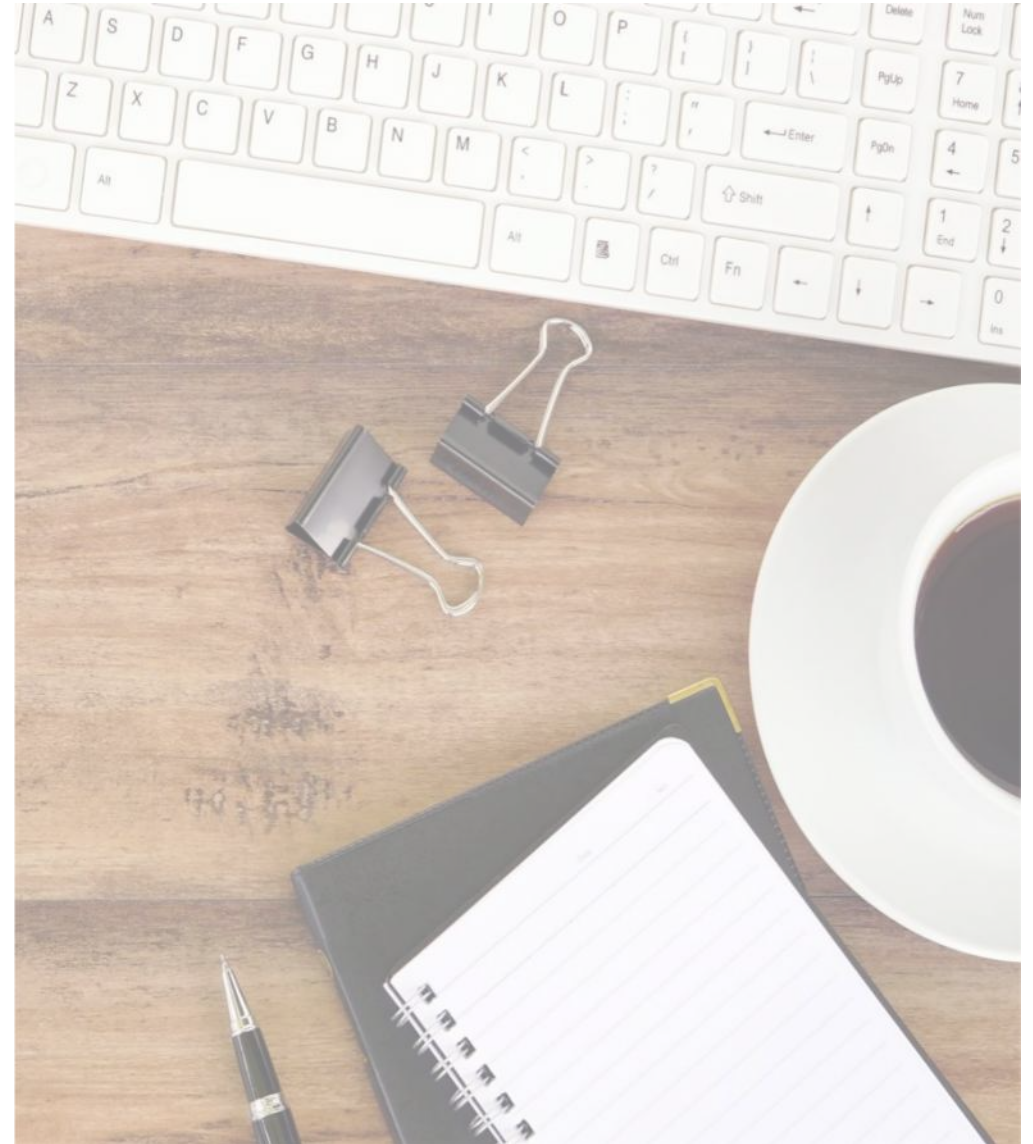
年度	調査対象・目的
2023-2024年	インドネシア政府関係者および認可送り出し機関（ジャワ・バリ）へのインタビューを実施。 特定技能制度導入後の制度的変化を把握。
2024-2025年	台湾・日本・香港への渡航準備中のインドネシア人移住労働希望者82名を対象に聞き取り調査を実施。
2024-2025年	日本で技能実習または特定技能として就労中のインドネシア人を対象に聞き取り調査を実施。

# 理論枠組み

## ASPIRATION-CAPABILITIES フレームワーク (De Haas, 2021)

- ・ 個々人の移住経験は、より広範な社会変動のプロセスによって形づくられる。
- ・ 移住の志向 (aspirations) は、人々の一般的な人生志向と、  
地理的な機会構造に対する認識 (= 移動の主体性) による組み合わせである  
→ 文化、教育、個人の性向、アイデンティフィケーション、情報、イメージなど
- ・ 移住のケイパビリティ (capabilities) とは、実際に移動することを可能にする能力をさす  
→ パスポートの取得可能性、経済的資源、制度的障壁など

# 「新たな移住先」 としての日本

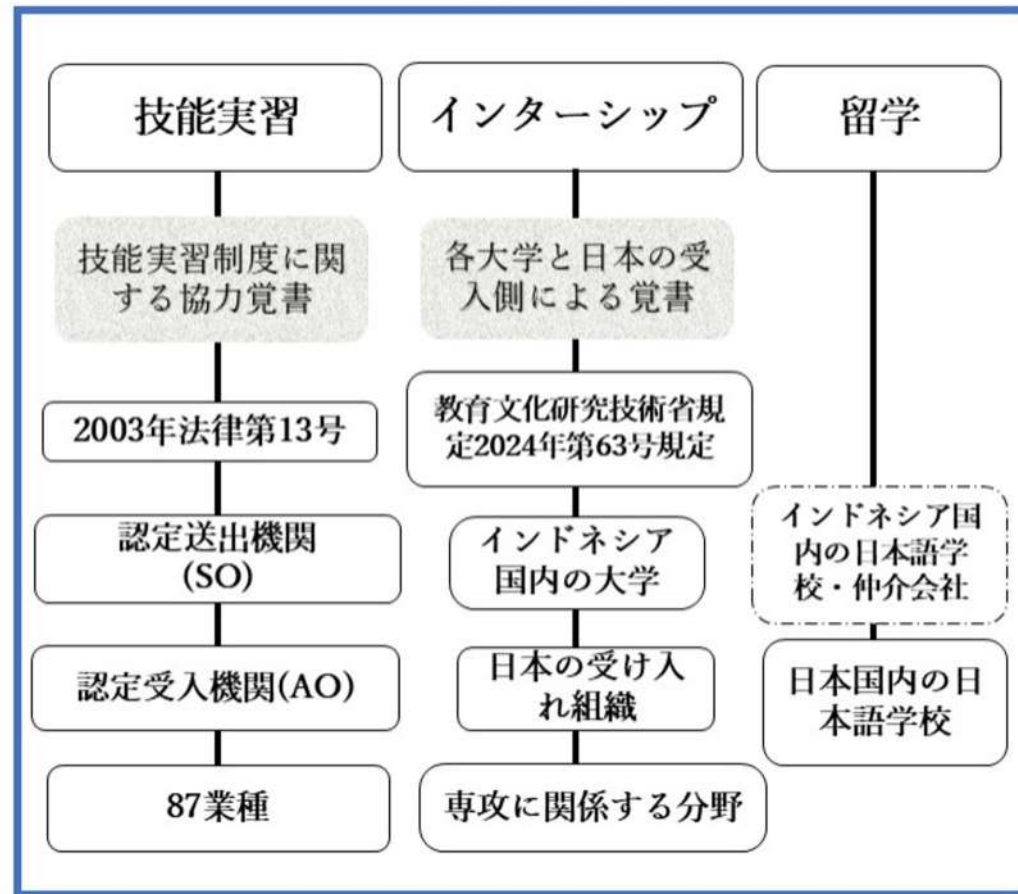


# 日本をめざすインドネシア人の移住経路

## 「移住労働者」



## 「実習・教育」





# 技能実習生の送り出し機関による「教育」



労働省・西ジャワ州ブカシ市の訓練所  
技能実習の候補者達が教室の前に並ぶ靴の様子  
2020年2月  
報告者撮影



Y 送り出し機関 中部ジャワ州  
2024年3月  
発表者撮影

Docile –and –disempowerment trainee (Waode, 2026 forthcoming)



# 特定技能労働者への「教育」



A日本語学校 西ジャワ州  
2023年12月  
発表者撮影

- ・日本語試験（JFT BASIC等）合格の必須条件となっているが、技能実習生向けの「教育」が行われる
  - 日本語学習期間の長期化
  - 寮生活・毎日運動や体育教育もなくなった（A日本語学校事例）
  - 特定技能希望者向けの「会話コース」を設ける
- 技能実習生送り出し機関もある（東ジャワ州・中部ジャワ州送り出し機関の事例）



# Aspiration・Capabilitiesからみる インドネシア人移住労働希望者の意思決定

## ブディ氏・29歳・男性・東ジャワ

ブディ（29歳・東ジャワ）は、すでに韓国で働いている親族の影響を受け、当初は韓国で働くことを目指していた。6か月間韓国語を学んだが、韓国で必須とされる語学試験に不合格となったため、日本で働いている兄を追って、日本行きの準備を始めた。

プロセスの不確実性およびライフステージは彼の意思決定に影響を及ぼした。

特に韓国の場合、試験に合格しても行ける保証がない。でも日本は、仕事が決まれば必ず行ける。それから、韓国に行くときの年齢も考慮しないと（省略）。それに、結婚資金のために貯金もなくなった。つい最近、2か月前に結婚したばかりだ。

インタビューの時点（2025年2月）では、鹿児島県の建設分野の技能実習生として働くため、出国の待機中である

## 韓国から日本へのシフト



# 来日希望者の声


以前は（韓国で働くことも）考えましたが、言語がもっと難しいと聞きました。それに韓国は試験のプロセスも長いと。試験は年に2回しかないと聞いていますが、日本は違うと。

男性・23歳・中部ジャワ／西ジャワの送出機関でTITP渡航待ち（建設）

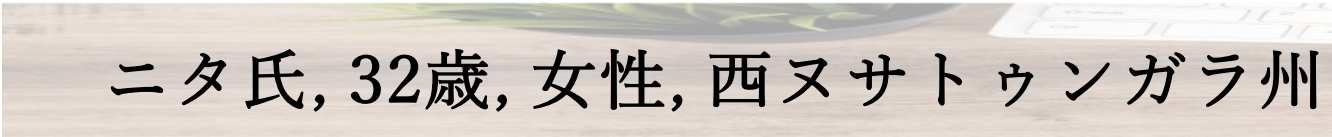
最初はシンガポールまたはマレーシアを考えました。しかし、兄にインドネシアでの給料もそこまで変わらないと教えてもらいました。給料は高いのが日本および韓国だが、私の出身地では韓国に行くのはほとんど男性です。それに試験が年2回だけと聞きました。もし合格しなければ長く待たないといけないので、日本を選びました。女性の友だちが一人、すでに日本に行っていて、うまくいったと（聞いたので）

女性・20歳・ジョグジャカルタ／西ジャワの送出機関でTITP渡航待ち

- ・ 韓国語の試験および長期的なプロセス
- ・ ジェンダー化された移住経路



韓国



## ニタ氏, 32歳, 女性, 西ヌサトゥンガラ州

ニタ氏は離婚、また母がサウジアラビアから帰国したことをきっかけに海外就労を志した。日本を候補国として考えていたが、最終的には渡航費用を考慮し、台湾での就労を選択した。インタビューの時点（2025年2月）では、台湾への出国のため、待機中である

母が「別の国を選んだほうがいい」と言いました。サウジアラビアでは休みなく働くから、朝3時から昼12時まで休憩もなく、本当に大変だったと。「あなたは別の国にしたほうがいい」と言われました。それで、姉が日本のクリーニング工場で働いているので日本も考えました。でも費用が払えませんでした。ロンボク市（西ヌサトゥンガラ州）では、（日本に行きたいのであれば）バリ島に行かないといけなくて、それもお金がかかります。飛行機代、宿泊、生活費なども全部必要ですね。

現在は、台湾で住み込みの高齢者介護労働者として勤務中

日本から台湾へシフト



(移住先について) いいえ、わたしは最初から日本に行く決めていました。親に相談したら「日本に行きなさい、台湾には行かなくていい」と言われました。母も台湾で元移住労働者だったので、「台湾は疲れるから、あなたは日本にきなさい」と。

女性・18歳・西ジャワ州／TITP（1年プログラム）渡航待ち

台湾に行くための費用が高いです。私の家の前に台湾行きの訓練所がありますが、（費用として）7000万ルピア（70万円）を求められました。また給与から天引きもあります。台湾の場合に、それ（給料からの天引き）があると。それで台湾（での就労）がないと決めました。

男性・23歳・西ジャワ州

男性および家事労働者以外には高コストの台湾

Gendered Mobility (Lindquist, 2010)



A background image of a wooden desk. In the top left, a portion of a white computer keyboard is visible. Below the keyboard, two silver paper clips are on the desk. In the bottom right, a black pen and a spiral-bound notebook are partially visible.

# ASPIRATION-CAPABILITIES

- インドネシア人移住労働希望者の aspirations（志向）は単なる経済的必要性だけでなく、国内の不安定雇用から脱したいという願望や、よりよい生活を求める思いも含まれる
- Aspirationは、親族や友人からの直接的な情報、送り出し機関、さらには SNS を含むソーシャルメディアといった社会的に形成されています。
- Aspirationは、費用やジェンダー化された労働市場といった構造的要因だけでなく、家族の経験や期待といった社会的影響によっても形成され、しばしば制約を受けています。



## SSW OR TITP ?

「技能実習プログラム」を選択した来日希望者

- 比較的小さい待機期間
- TITP は日本で働くための「入口」として、SSW は実習後も日本で働き続けるためのルートとして理解されている

一方、特定技能を選択する理由は、特定技能制度のほうがよいという志向だけではない。むしろ、送り出し機関による年齢制限、費用負担等の制約を避けながら「可能な選択肢を見つける」過程によって決まる傾向にある。

## A日本語学校におけるMANDIRIスキームによる特定技能労働者の送り出し費用

一人当たりの費用は22-27万円



A日本語学校関係者への調査結果によるまとめWaode作成

## 民間送り出し機関による技能実習希望者の負担額

一人当たりの負担額は30～50万円\*



技能実習生の送り出しに関わる関係者への調査結果によるまとめWaode作成

\* 60万円以上徴収する送り出し機関事例もある

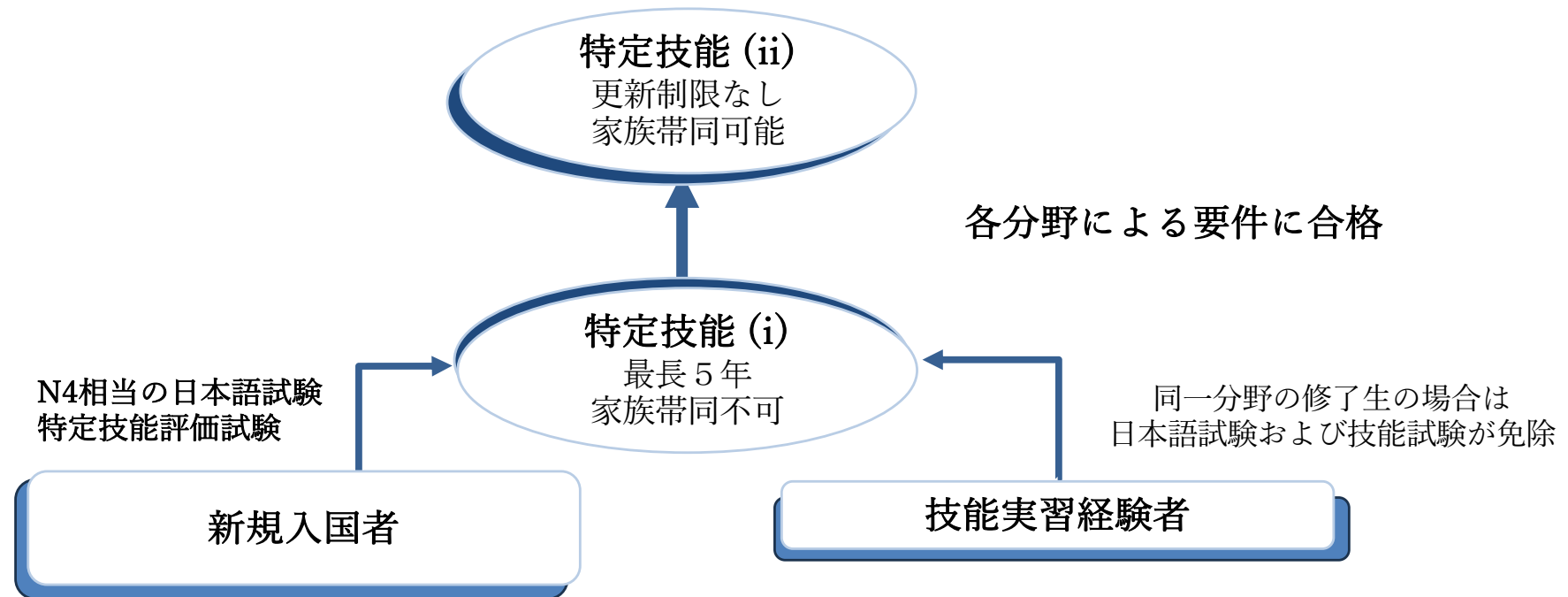
「参考」:TITP・SSWの費用構造





D氏の事例：特定技能制度の限界？

# 技能実習制度および特定技能制度の接続



*Compiled by Waode based on data from the Ministry of Health, Labour and Welfare (MHLW) and the Ministry of Foreign Affairs (MOFA), Japan.*

## 特定技能労働者の事例：D氏


2021年に「技能実習生」として入国し、茨城県の農業に従事した  
2023年に別の企業に転籍し、農業分野の特定技能1号に移行した  
2026年1月に帰国予定

特定技能2号への移行に対し、会社も協力的である

→妻がインドネシアに残されたこと、物価上昇により、日本での生活コストが負担になる。


→農業分野では、新規外国人労働者獲得が簡単であり、2号に移行しても給料が上がる見込みないと指摘した



A photograph of a wooden desk with a white keyboard, two paper clips, a spiral notebook, and a pen. The text '特定技能制度の限界？' is overlaid on the left side of the image.

## 特定技能制度の限界？

特定技能制度は『技能による定住可能性』を掲げるものの、実際には家族帯同の制限・生活費の高騰・特定分野の低賃金構造により、D氏の事例のから、労働者にとって長期滞在は合理的選択とはならない可能性が示唆される



## 参考文献


de Haas, H (2021) A theory of migration: the aspirations-capabilities framework. *Comparative Migration Studies* 9(1):8.

Istiqomah, W.H. (2026) The Making of “Ideal Trainee”: A Case Study on Technical Intern Training Program (TITP) Indonesia – Japan. *Social Theory and Dynamics* (forthcoming)

イスティコマー, ワオデハニファー (2023) 「インドネシア人技能実習生の動機が多様化－拡大する移住インフラ影響に着目」『国際交流学部紀要』フェリス女学院大学, 25, 179–208.

イスティコマー, ワオデハニファー (2025) 「インドネシアにおける日本への人材派遣の費用構造－技能実習・特定技能を中心に－」橋本財団ソシエタス総合研究所

ラムダニ, アンディ. ホリック., イスティコマー, ワオデハニファー (2025) 「送り出しから受け入れまで～インドネシア人材派遣にみる多様化と制度再編の動向～」

A top-down view of a wooden desk. In the upper left is a small potted plant with green grass-like leaves. To its right is a white computer keyboard. In the lower right is a white coffee cup on a saucer. Below the coffee cup is a spiral-bound notebook with lined pages and a silver pen. Two black binder clips are on the desk near the keyboard. The text "Terima Kasih" and "ご清聴ありがとうございました" is overlaid in the center.

Terima Kasih  
ご清聴ありがとうございました